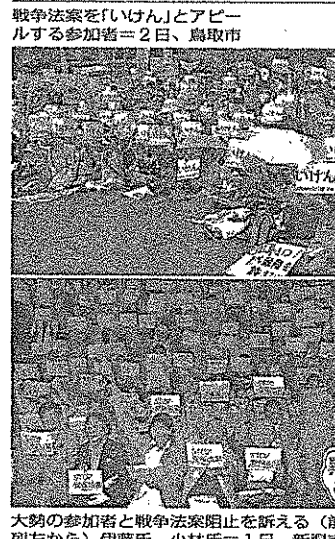


あまのこ

戦争法案 反対

県民一体

【鳥取県民連合会】戦争法案に反対する鳥取県民連合会が2日、鳥取市の久松公園で開かれた。会場をいこばいに埋める約1500人が参加し、「いん」と書いた紙を掲げ、安倍政権打倒を叫びかけた。学生や若者の運動を報告した大學生の堺泰一は「安倍政権に反対するママの会」を呼びかけている30代の女性は「大変な思いで子どもを産んだ。戦争で誰かを殺したり、殺されたくない」など母親の声を大勢の参加者で訴えられた。大勢の参加者と戦争法案阻止を訴える(前列左から)伊藤氏、小林氏=1日、新潟市



大勢の参加者と戦争法案阻止を訴える(前列左から)伊藤氏、小林氏=1日、新潟市

ダメ出し

【新潟県弁護士会】1日、新潟市で「安倍法案に反対する緊急市民集会」を開催。市民の田村由紀子さんは「ママになる身として戦争のない世の中を望みます」と話していました。平野哲也会長が「話を聞いて何が出来るか関心をもち、人と話をし、自分だけが反対の力になる」とあいさつしました。小林氏は「これまでの政府の説明では戦争法案の合憲性が説明できず、明確に憲法違反だ」と指摘。戦争法案成立で、自衛隊の兵たん活動で非難にリスクが高まると指摘。自分が多量に賛成した講演会での予想以上の大勢の参加が、全国で関心と反対運動が青年や若いママなど、かつてない層の人たちから起こっていることを強調しました。伊藤氏は、準備された自衛隊派兵などでの抑止力は古い考え方で、いまのテロには通用せず、テロの危険は一気に増し、特に原発が多い日本海側では危険だと指摘。戦争法案成立により、国民への監視や自由抑圧などの重大影響を強調しました。小林氏は「学者がもつて世間を驚かせなければならぬ。とどめを刺すまで頑張っていく」と述べました。参加者の男性26人は「前から戦争法案は違憲だと思っていたが、再確認するために来た。自分何ができることをしなければならぬ」と話しました。飯田市から父親と参加した中学2年生は「戦争はやりたいくない。松本協立病院の佐野達夫医師は命を守る医療人として戦争法案には絶対反対です。ネットに検索した千由子から一人参加した滝沢豊盛さん(64)は「安倍のやったことは絶対に許さない。『国民に分りやすく説明する』といいますが全然説明になっていない」と怒ります。パレードでは、楽器演奏にあわせて平和の歌を歌いながら歩くグループも。ペーパーを押し歩いた30代の夫婦は父母と親子3世代7人で参加。「子どもの未来を守りたい」と語りました。

広く共同

【長野・松本】戦争法案を廃案に！8、2県民大会が2日、長野県松本市駅前広場で開かれた。県民連合会は「安倍のやったことは絶対に許さない。『国民に分りやすく説明する』といいますが全然説明になっていない」と怒ります。パレードでは、楽器演奏にあわせて平和の歌を歌いながら歩くグループも。ペーパーを押し歩いた30代の夫婦は父母と親子3世代7人で参加。「子どもの未来を守りたい」と語りました。

若者が母親が弁護士が元自衛官が

KOデモ

松山の商店街

【戦争法には絶対反対】ヤンキー達も参加した。松山市の商店街で、戦争法案反対デモが行われ、100人が参加しました。15歳から35歳の若者でつくられた実行委員会の主催。タンバリンを鳴らし、ウクレレを弾き、替え歌を歌うなど、若者らしいサウンドデモで市民の注目を集めました。坊っちゃん広場で開かれた出発集会では、愛媛大学の学生や新居浜市の中学生、愛媛医療生協の職員らが、戦争法案への思いを語りました。「戦争は人々の心も身体からでも傷つけること、武力で平和はつくれることを学びました。私たちは、言葉で戦争に反対し、平和を紡いでいきます」とのスピーチを採択。中学校の教師や旅行

中の男性がデモを見て飛び入りで参加していました。参加した愛媛大学の男子学生2人は「都市部に比べ規模は小さくても、こういう形で声を上げていくことは大切だと思います。この運動がもっと大きくなってほしい」と話していました。

超党派で

静岡・藤枝

静岡県藤枝市で2日、愛する人を戦場に送らない市民のついで紹介されるべく、「頑張るママの会」を呼び出した。集会後、JR鳥取駅までデモ行進しました。市内の田村由紀子さんは「ママになる身として戦争のない世の中を望みます」と話していました。平野哲也会長が「話を聞いて何が出来るか関心をもち、人と話をし、自分だけが反対の力になる」とあいさつしました。小林氏は「これまでの政府の説明では戦争法案の合憲性が説明できず、明確に憲法違反だ」と指摘。戦争法案成立で、自衛隊の兵たん活動で非難にリスクが高まると指摘。自分が多量に賛成した講演会での予想以上の大勢の参加が、全国で関心と反対運動が青年や若いママなど、かつてない層の人たちから起こっていることを強調しました。伊藤氏は、準備された自衛隊派兵などでの抑止力は古い考え方で、いまのテロには通用せず、テロの危険は一気に増し、特に原発が多い日本海側では危険だと指摘。戦争法案成立により、国民への監視や自由抑圧などの重大影響を強調しました。小林氏は「学者がもつて世間を驚かせなければならぬ。とどめを刺すまで頑張っていく」と述べました。参加者の男性26人は「前から戦争法案は違憲だと思っていたが、再確認するために来た。自分何ができることをしなければならぬ」と話しました。飯田市から父親と参加した中学2年生は「戦争はやりたいくない。松本協立病院の佐野達夫医師は命を守る医療人として戦争法案には絶対反対です。ネットに検索した千由子から一人参加した滝沢豊盛さん(64)は「安倍のやったことは絶対に許さない。『国民に分りやすく説明する』といいますが全然説明になっていない」と怒ります。パレードでは、楽器演奏にあわせて平和の歌を歌いながら歩くグループも。ペーパーを押し歩いた30代の夫婦は父母と親子3世代7人で参加。「子どもの未来を守りたい」と語りました。



集会参加全員で「NO!戦争法案」をアピール=2日、長野県松本市

【戦争法案絶対反対】などとコールしてパレードする人たちは2日、静岡県藤枝市の声で何としても法案を廃案に」との伝言が紹介されました。

深見謙次さん(86)は「若い頃に戦艦の機銃掃射を見て恐ろしかった。暴力で支配する戦争はもうごめんだ」と述べました。